ユーラシアンホットライン

「ユーラシアンクラブ創設 20 年の集い」に参加者 120 人。新旧交代を祝う。

集いにはキルギス共和国リスペク・モロドガジェフ特命全権大使、在日モンゴル国大使館N, バヤスガラン領事、駐日アフガンニスタン大使館バスィール・アハマド・ハムダルト二等書記官、中華人民共和国駐日本国大使館友好交流部呂新鋒三等書記官などがご参加し、お祝いのご挨拶をいただいた。また著名な考古学者加藤九祚先生（同クラブ名誉会長）、日本体育大学松浪健四郎理事長、財団法人井上靖記念文化財団浦城幾世理事長、大相撲の内モンゴル人力士蒼国来関など各分野の 120 人ほどの方々にご参加いただいた。（バーボルドー副理事長）
https://www.youtube.com/watch?v=d1Augrsoyro（ユーチューブで公開）

「NPO ユーラシアンクラブ創設 20 周年の集い」を終えて
理事長　江藤セデカ

20 周年の集いに多数の皆様に参加いただきありがとうございました。ユーラシアンクラブがここまで来られたのも皆様のおかげです。国家民族宗教を超えた理解親睦協力の促進、先住少数民族への敬意を持って民族の共生・自然との共生を模索する活動を今後とも継続していく考えです。

加藤九祚先生はじめ 20 年間関わっていただいた方にはとても感謝しています。アジア～東ヨーロッパまで 5000 年前から様々な民族の文化の歴史が有りますが、また様々な紛争もあり世界中に人々が離散していきました。その結果、アラブ、ギリシャ、モンゴルなどにその文化が継承されていきました。

大昔から資源を目指し戦いが繰り返されてきました。そこには大きな犠牲が伴い民族・人種が消滅することもありましたがユーラシアの人々の力で文化が伝えられてきました。祖先が文化を守るため大きな苦労をされて今に至っています。これからもユーラシアンクラブは次世代に特に子供たちに、消滅させてはいけない文化を間違いなく伝えていく活動をしていく決意です。

文化の発生の地であるアジアの文化は歴史上最も重要なものです。伝統（音楽・文字・芸能など）を伝える努力は日々継続するものです。未来志向でユーラシアンクラブはこれからも活動を続けます。

日本と同様「アジアの日出ずる国」とも呼ばれるアフガニスタンの内戦が早く終わって欲しい！琵琶、三味線などの日本の音楽とアフガニスタンの音楽が平和な世の中で合奏できれば、歴史が作った音楽の総決算になる。衣服もその伝承文化を伝えていきたい。そのためにも強く内戦が終結することを願ってやみません。

左から江藤セデカ理事長、大野遼会長、バー・ボルドー（富川力道）副理事長、加藤九祚名誉会長

見事な司会で式典を進行した森本修平さん，加藤九祚名誉会長

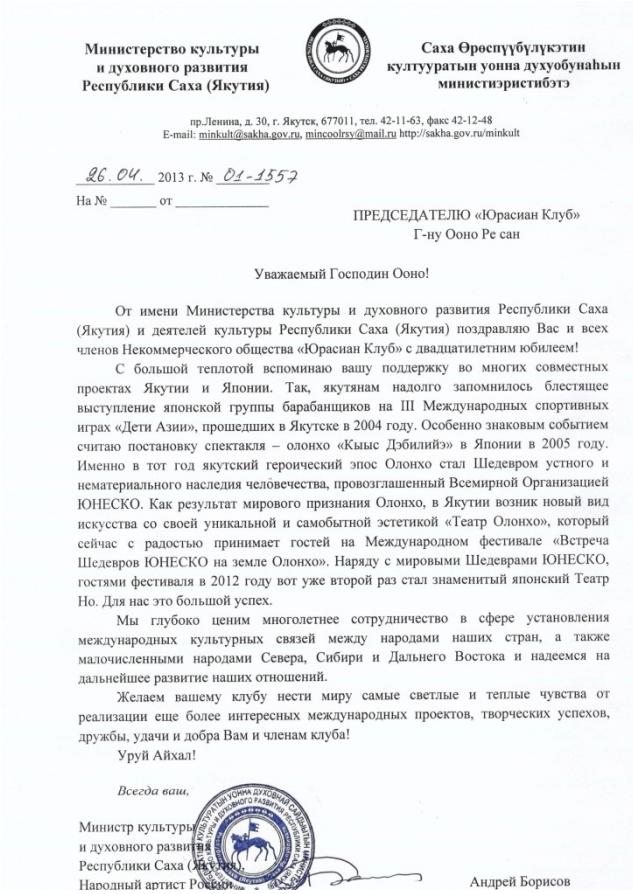
これからの１０年、ユーラシアンクラブは様々な活動を予定しています。今年度は「ペルシャ文化フェスティバル」、「留学生フォーラム」、「アイハヌム遺跡見学ツアー」、「シカチアリァンの岩絵展」そして支部である神奈川県愛川町の愛川サライが進めている「中津川モンゴルフェスティバル」「中津川弁財天愛川町音楽祭　アジア・シルクロード笛と太鼓のフェスティバル」ーなどの計画を進めています。

これからも皆様の応援よろしくお願いいたします.

在日モンゴル国大使館
バヤスガラン領事

キルギス共和国リスペク・モロドガジェフ特命全権大使

駐日アフガンニスタン大使館バスィール・
アハマド・ハムダルト二等書記官



Министерство культуры
и духовного развития
Республики Саха (Якутия)

Саха Өрөспүүбүлүкэтин
культууратын уонна духуобунаһын
министиэристибэтэ

пр.Ленина, д. 30, г. Якутск, 677011, тел. 42-11-63, факс 42-12-48
E-mail: minkult@sakha.gov.ru, mincoolrsy@mail.ru http://sakha.gov.ru/minkult

26.04. 2013 г. № 01-1557
На № _____ от _____

ПРЕДСЕДАТЕЛЮ «Юрасиан Клуб»
Г-ну Ооно Ре сан

Уважаемый Господин Ооно!

От имени Министерства культуры и духовного развития Республики Саха (Якутия) и деятелей культуры Республики Саха (Якутия) поздравляю Вас и всех членов Некоммерческого общества «Юрасиан Клуб» с двадцатилетним юбилеем!

С большой теплотой вспоминаю вашу поддержку во многих совместных проектах Якутии и Японии. Так, якутянам надолго запомнилось блестящее выступление японской группы барабанщиков на III Международных спортивных играх «Дети Азии», прошедших в Якутске в 2004 году. Особенно знаковым событием считаю постановку спектакля – олонхо «Кыыс Дэбилийэ» в Японии в 2005 году. Именно в тот год якутский героический эпос Олонхо стал Шедевром устного и нематериального наследия человечества, провозглашенный Всемирной Организацией ЮНЕСКО. Как результат мирового признания Олонхо, в Якутии возник новый вид искусства со своей уникальной и самобытной эстетикой «Театр Олонхо», который сейчас с радостью принимает гостей на Международном фестивале «Встреча Шедевров ЮНЕСКО на земле Олонхо». Наряду с мировыми Шедеврами ЮНЕСКО, гостями фестиваля в 2012 году вот уже второй раз стал знаменитый японский Театр Но. Для нас это большой успех.

Мы глубоко ценим многолетнее сотрудничество в сфере установления международных культурных связей между народами наших стран, а также малочисленными народами Севера, Сибири и Дальнего Востока и надеемся на дальнейшее развитие наших отношений.

Желаем вашему клубу нести миру самые светлые и теплые чувства от реализации еще более интересных международных проектов, творческих успехов, дружбы, удачи и добра Вам и членам клуба!

Уруй Айхал!

Всегда ваш,

Министр культуры
и духовного развития
Республики Саха (Якутия)
Народный артист России

Андрей Борисов

ロシア連邦サハ共和国文化大臣←露日協会サハ支部・ハトラエフ夫妻からメッセージ

駐日アフガニスタン大使館
セイエド・Ｍ・アミーン・ファテミ特命全権大使のメッセージ

皆様、本日はこのような場にお招き頂きまして本当にありがとうございます。本日はスケジュールの都合でファティミ大使は来られませんでしたが、皆様の考えに深く賛同しておりサポートをさせて頂きたいと申しておりますので、本日は変わりに私の方からお話をさせて頂きたいと思っております。まず、この場をおかりしまして本日主催して頂きましたＮＰＯユーラシアンクラブの皆様、大野会長また新しく理事長となられました江藤様に感謝申し上げます。私たち駐日アフガニスタン大使館はとても江藤様を誇りに思っておりますので、今回の選任は私たちの長い交流の歴史の中で大きな進展であると思っております。

アフガニスタンと日本の文化は少なくともシルクロードの時代からつながりがあります。アイディアや製品は陸と海を越えて運ばれ人々の生活に影響を与え豊かにしてきました。また、仏教はアフガニスタンへもたらされ、仏像としてアフガニスタンの芸術スタイルに取り入れられています。例を上げるとアフガニスタンのラピスラズリで装飾されている帯や鏡が奈良県にあります正倉院に保管されています。

私たちは現在も文化的に多くのことを共有しております。例えばお茶を好むことや、敬意と尊敬の価値観、また家に入るときは靴を脱ぐことを学ぶということがあります。これらは多くある共通点のほんの一部です

豊かな歴史と文化があるにもかかわらず、アフガニスタンは、しばしば誤解されます。　わたしたちは、アフガン人と日本人の個人的なつながりの気持ちを理解するようお互いに協力します。　ユーラシアンクラブは、アフガニスタンが位置する地域と、日本とのコミュニケーション、交流、理解を深めるという同じような目標があります。

私たちは、一緒に協力することを期待します。

最後になりますが、２０年間の間、気持ちを一つにすることができた成功に対し、心からお祝い申し上げます。

さらなる成功をお祈りしています。ありがとうございました。

1、サハ共和国（ヤクーチヤ）文化省

ユーラシアンクラブ会長　大野遼様

尊敬すべき大野様

サハ共和国（ヤクーチヤ）文化省とサハ共和国（ヤクーチヤ）の諸々の文化活動家の名より、あなた様と非営利団体ユーラシアンクラブの全会員をその 20 周年につきお祝い申し上げます。

ヤクーチヤと日本の沢山の共同計画におけるあなた様の支援を大変あたたかい気持ちをもって思い出します。２００４年ヤクーチヤで実施された第三回国際体育競技「アジアの子ら」における日本の太鼓演奏家のすばらしい公演はヤクーチヤの人々の記憶に長く残りました。２００５年日本での「クィイス・デビリイエ」のオロンホの演劇の上演はまたとくに記念すべき出来事であると考えております。まさしくこの年、ヤクーチヤの英雄叙情詩オロンホは、国際ユネスコ機構によって人類の口承無形遺産の傑作であると宣言されました。このオロンホの世界的承認の結果、ヤクーチヤでは、ユニークかつ独自的な美的意識をもつ新しい芸術である「オロンホ劇場」がうまれ、今、国際フェスティバル「オロンホの地におけるユネスコ傑作の出会い」において喜びをもって客人を迎えています。ユネスコの世界的傑作とならび、２０１２年のフェスティバルではすでに二年にわたり日本の著名な能劇場がわれわれの客人になっております。

われわれはわれわれ両国間、ならびに北方、シベリア、極東の少数民族間の国際的文化関係の確立の分野で多年にわたる協力をあつく評価しており、今後のわたしたちの関係発展に期待しております。

貴クラブが、さらに興味深い国際的計画の実現によりもっとも明るく暖かいこころを世界にもたらすこと、あなた様と貴クラブの会員に創造的成功と友好、幸運と幸せを希望します。

ウルイ・アイハル！

敬具

サハ共和国（ヤクーチヤ）文化省大臣、ロシア人民芸術家

アンドレイ・ボリソフ

2．露日協会ヤクーツク支部

尊敬すべき大野様

露日協会ヤクーツク支部会は、あなた様のユーラシア諸民族の相互理解のための私心なきご活動が 20 年を迎えることに際し、あなた様と非営利法人「ユーラシアンクラブ」のすべての会員のみなさまに心よりお祝い申し上げます。

われわれサハ共和国（ヤクーチヤ）の住民は、エクスポ２００５へのサハ共和国（ヤクーチヤ）の参加に際した２００５年３月の日本でのサハ民族叙情詩「クィイス・デビリイイエ」のオロンホの最初の公演におけるあなた様のかけがえのない支援を記憶しております。

サハ民族音楽文化の宣伝、日本でのユーラシア音楽祭の公演者への共和国音楽家の毎年の招待、太鼓による伝統ゲームの成育への支援にたいするあなた様の貢献は計り知れないものがあります。

サハ共和国（ヤクーチヤ）露日協会全会員の名前において、そしてわたくし個人の名前において、今一度あなた様をこの記念すべき日に際しお祝い申し上げます。あなた様とあなた様のご同僚のみなさまの今後のご成功、幸運、幸福、ご健康をお祈り申し上げます。

心よりの敬意をこめて

露日協会ヤクーツク支部会議長

Ｎ・バラムィギン

２０１３年４月２５日、ヤクーツク市

3、ハトラーエフ夫妻

尊敬すべき大野様

サハ共和国民族音楽作者センター（ヤクーチヤ「トルト・ドルゴオン」、クラヴジヤとゲルマン・ハトラエフ）はユーラシアクラブの記念すべき 20 周年に際し、あなた様をあつく慶祝申し上げます。わたくしどもの創作活動に対しいただきましたご支援、われわれ民族のあいだの友好関係の確立のためになされた個人的な貢献に対して、あなた様にこころよりの敬意と感謝の念を表明させていただきます。われわれ共和国では、あなた様を、仕事熱心で、誠意あり、真心ある、心の豊かな方、われわれの児童の能力と技術の発展にもっとも誠意ある貢献をなされた方であると存じ上げており、世界レベルでのわれわれ共和国の権威向上とイメージ強化に対するあなた様の多大なる貢献を評価しております。

われわれは、わたしたちの協力により、わたしたちの成長する世代が自民族の伝統文化を維持し、育み、発展させるであろうことを確信しております。

尊敬すべき大野様！あなた様に、われわれヤクートのダイアモンドの如く堅牢な健康、そしてご事業における今後の成功、創造的アイディアの実現、そして長く若々しい魂を保たれるように希望いたします。

あなた様とあなた様の近しい方々に幸運と幸福があることを祈ります。

あなた様の友人であるハトラエフ・クラヴジヤとゲルマン

2013 年 4 月 12 日

サハ共和国、ヤクーツク市

●　20 周年の集いを終えて―「20 周年の集い」をコーディネートした永田真一さん

今は無事に終えられてほっとしています。

創設以来、多くの人々が作り上げてきた NPO 法人「ユーラシアンクラブ」。

今回参加いただいた大使館、設立に関わった団体、来賓の皆様のお名前を見ただけでも 20 年の重い歴史が見えてくるようで、その団体に所属していることを十分理解できていない自分がいます。

この日の準備のため、総務委員会や個別にメンバーの方たちと話し合いを進めてきた中で感じたことは、成功させたいという関係者全員の真剣な気持ちが、参加していただいた皆様の気持ちと混じり合い、その結果がこの「集い」という作品に現れたと思います。

加藤九祚先生が通訳したビクトリア・ドンカンさんのお話は、その内容以上に絵になっていました。

たくさんのエネルギーをいただきました。

私に限って言えば、会費はもっともっと高くても良いと感じられる、参加できたことが喜びのひと時でした。

お忙しい中参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

パンチャラマさん

ウルグンさん

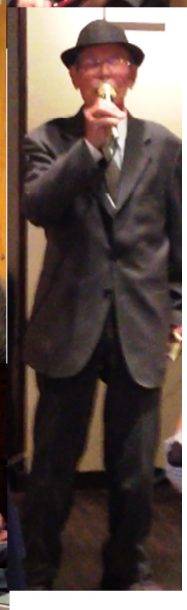
浦川治造さん

愛川町の仲間

ビクトリア・ドンカンさん

松浪健四郎さん

20 年来の思い出をつまみに談笑する仲間の皆さん



「あざみの歌」を熱唱する加藤九祚先生91才

30年の同志高橋一夫さんと奥様（→↓）と宮崎で10年間「アジア・シルクロード音楽フェスティバル」を開催した仲間の河野真一さん（↑）

夏場所にむけ決意を語る蒼国来関

●　特別招聘されたビクトリア・ドンカンさん（アムール川の先住少数民族ナナイのシカチアリャン村教師：伝統芸能継承者）

ユーラシアンクラブ創設２０周年の集いへの招待状を手にした時、大変嬉しくおもいました。シカチアリャン村を訪れた多くの友達を思い出し、早く皆さんとお会いしたいという気持ちに掻き立てられました。なんでもっと日本語を勉強してこなかったのかと自分を責めました。河野さん、井口さん、杉山さん、宮田さん、高橋さん、清子さん、加藤さん、浦川さんと再びお会い出来て大変嬉しく思いました。晃憲さんと友好を温めました。多くの素晴らしい人たちと出会いました。誕生日のようにたくさんの贈り物をいただきました。2015 年に「300 人の村の古代絵画展」が予定されている横浜と大阪の博物館は大変素晴らしい場所でした。畠山さん、佐々木さんは誠実で、信頼でき、展覧会はみのりおおいものになるでしょう。こうした博物館でシカチアリャン村のコーナーが展示されることを大変誇りに思います。富山市のミシン工場の経営者東林さんとお会いできなかったことは大変つらいことでした。彼のお墓の前では涙が止まりませんでした。素晴らしい人でした。シカチアリャン村の女性 3 人が研修を受けたミシン工場跡を訪れ、再び当時が蘇り、時の移ろいの速さに感慨深いものがありました。時は移り、東林さんの姿は無いけれど、それでも人々との出会い、友人、友情、想い出深いことが胸に残っています。ユーラシアンクラブが今後も大きな成果を収めることを願っています。日本の最高の場所を見せていただいたことに感謝します。有名な富士山も見れました。今、村民にユーラシアンクラブと展覧会計画について話しています。展示品の収集にこれから取り掛かります。

●　ビカさん、2015 年５月開催の「300 人の村の古代絵画展」に向け、横浜、大阪、富山を訪問

←↓横浜ユーラシア文化館

国立民族学博物館
↓　　→

村の 3 人の女性がミシン縫製の研修を受けた富山市で、東林勉さんのお墓で手を合わせるビクトリア・ドンカンさん↑

●　ユーラシアンクラブ２０周年記念式典に参加して

まちづくりネットワーク愛川　代表　諏訪部勲

ユーラシアンクラブ創設２０周年記念の印刷物をいただき、さらに記念祝賀式典に参加させていただいてユーラシアンクラブの認識を新たにしました。

私の暮らす神奈川県愛川町は、外国籍の人が多い。一時期より減ってはいますが人口約４１,０００人に対し約２、２００人（５．３％､）、それも中南米の人が多く、行政は中南米を中心とする日本語教育と相互理解に向いています。しかし時代は中国の台頭、ソ連の極東開発重視により、一般市民感情としては、地政学的意味や時代背景を感じてアジア、ユーラシアにもっと関心を持たなければならないと考えている人は多いと思う。そういう中で、愛川町で数年前から始まった少数民族に関心をよせるユーラシアンクラブの活動は、別なユーラシアとの接し方もあることを教えてくれました。大野遼氏の地道で積極的な活動によって少しずつではあるが理解者は出てきている。と同時に、そのことに努力される人たちを支持してさし上げることの大切さを感じてきています。

NPO 法人ユーラシアクラ・愛川サライは、活動を通じてまた新たな企画、アイディアの提供によって愛川町の発展に寄与してくれている可能性を持っています。自然豊かで都心から車で６０分（高速道路）の距離にある愛川町は、ユーラシアクラの活動の一つの拠点として魅力ある土地になるでしょう。そんなことを今回の 20 周年記念祝賀会式典に参加させていただいて感じました。

●　18 年間を振り返って一井出晃憲

思えばユーラシアンクラブとの出会いは、クラブ創設 2 年後の 1995 年春、早稲田大学で開催されたシンポジウムだった。それ以来 18 年間に渡って私はクラブとの関わりを続けてきた。その間、様々な方々がクラブに参加し、また離れて行った。クラブのイベントも新潟・群馬・江東区など様々な場所で行われてきたが、うまくいかない事例も多かった。

クラブの 20 周年の集いに参加し、これまでの経緯を思い出しながら感慨にふけった。今後は“大野クラブ”を脱して、アフガニスタンの江藤セデカ女史とモンゴルのバー・ボルドー氏を中心にクラブを運営していくという。イベント開催地も地域拠点型を取り、東京日本橋と神奈川愛川町に焦点を当てていくという。このように刷新されたクラブの今後に期待したい。

私も副理事長・事務局長として非力ながらクラブに貢献していきたい所存である。私自身はクラブ創設の原点であるロシアの少数先住民族の支援と交流に注力したいと思っている。良い結果が出るように努力したい。

●　多方面の活動に感銘

4月28日に開かれた「ユーラシアンクラブの創設20周年の集い」は、約3時間の、楽しい会でした。私は 1995 年に始まったインターカレッジ文化講座がご縁で、ユーラシアンクラブを知りました。講座には5年ほど参加し、とても楽しく勉強させていただきましたが、近年は、ニュースレターを拝見するくらいで、催事にはご無沙汰していました。

大使館をはじめとするゲストのスピーチ等を伺っていると、この 20 年の間には、いろいろな障壁があり、紆余曲折もあったことがうかがわれました。民間の一 NPO が、人のつながりを支えとして、一つ一つ困難を乗り越えてこられた 20 年に、継続の重みを感じます。この継続は、クラブの皆さまのねばり強さが、確かな支援者を掴んだことの証でもあるのでしょう。

会では、私とはまったく異なる方面から、クラブに興味を持たれた方とお話することができました。数年前、キルギス旅行に参加して、一般のツアーでは絶対に体験できない現地交流に感激したという方や、去年、大震災の東北訪問ボランティアに参加された方など、それぞれの接点で、クラブとの関わりを大切にしていらっしゃるそうです。ユーラシアンクラブが、多方面に活動を展開していらっしゃるのを、直に感じ、私自身の世界も広がったような気がしました。

一番心に残ったのは、ロシアの沿海地方・極東の村から、この集いのために来日されたという女性が披露してくださった、民族の伝統芸能です。素朴さの中に感じる懐かしさは、私たちとどこかでつながっている極東の村人の心、温もりからくるのでしょうか。村の女性たちが作るという民芸品を拝見すると、アイヌの文様によく似ていて、日本とのゆるやかなつながりを思い、日本海の向こうに暮らす人々が、今までになく身近に感じられました。クラブ創設以来のパートナーだというその女性は、現地の小学校の先生だそうです。村を訪問して、またお会いできたら、という夢が膨らんでいます。「国境や、言葉の違いは、たいした壁にならない」－これは本当でした。

多くの外国人ゲストに配慮して、２か国語で軽やかに進行を務められた、若い司会者の方の案内を聞きながら、ユーラシアンクラブがとても頼もしく見えました。これからどんな活動をなさるのだろうと、楽しみです。益々のご発展を願ってやみません。

（東京都.M）

●　ユーラシアンクラブと佐渡ケ島をつなぐ“人の環”

池田源一郎

「私は、それから十年たった今でも日本で一番美しい海岸はどこかと訊かれると、躊躇なしに佐渡の外海府一帯の海岸であると答えることにしている」　これはユーラシアンクラブのサポーターの浦城幾世さんの畏父、井上靖先生が昭和５０年４月１５日、毎日新聞によせた文章の中の一節です。井上先生は昭和２８年に佐渡を訪問し、その思い出を「大佐渡小佐渡」という随筆として発表されました。文頭の言葉は、その時の佐渡の海を再び毎日新聞で語ったものです。「大佐渡小佐渡」には先生が、今や佐渡にほとんど残っていない、小生の親戚の一つで、世阿弥の配所であった正法寺にも寄られたと書いてあります。

ところで、先日のクラブの２０周年記念のパーティーに、浦川治造副理事長と一緒に参加し、息子さんの奥様の父親が佐渡出身という、かずさ　国際文化交流会事務局長の城戸様から後日電話があり、その父親に小生の電話番号を教え良いかといわれたので了解すると、早速、翌日お電話をいただきました。　お話しすると共通する知り合いも多く、それよりもお父様は、佐渡人なら誰でも、その名を知っている、著名な郷土史研究家の山本修之助先生（１９０３年－１９９３）の次男とのこと。山本家は江戸時代には、佐渡の真野の陣屋をつとめた旧家・名家でもあり、柳田国男、司馬遼太郎など、多くの文化人が修之助先生に佐渡を案内してもらっています。　余談ですが先日のパーティーにもわざわざ新潟から、かけつけてくれ、この間、クラブを側面から応援していただいてきた親松茂　元新潟日報編集委員の、お爺様の親松太郎翁も明治、大正、昭和を生きた佐渡を代表する知識人です。そんなことで大佐渡小佐渡に、お名前は出てきませんが、もしかすると井上先生も修之助先生にお目にかかたのではないかと思います。

ところでこの夏、３年ぶりにサハ共和国から民族音楽家のハトラエフさんの率いる、子供の太鼓集団「ティティム」１８名が、７月２６日から８月５日まで日本に滞在し、小生も、その受入れのお手伝いをさせいただいています。今回の来日の主たる目的は、前回同様に愛川町で、世界的に有名な和太鼓集団の佐渡の鼓童の元プレイヤーの、金子竜太郎さんに和太鼓の奏法を学ぶことと、地元の県立愛川高校などとの国際交流です。ところで、この佐渡の鼓童は１９７１年、民俗学者の宮本常一、永六輔、横尾忠則さんなどに支えられながら筆名「田耕（デンタガヤス）」が佐渡の小木に創った和太鼓集団「鬼太鼓座（オンデコザ）」を源流としています。そして１９８１年、田耕が自ら佐渡を去っていたのに対して、残ったメンバーが地元民の協力のもとに１９８１年に鼓童として生まれ変わりました。それ以降 40 ヶ国余り、3000 回以上の海外公演をこなし、文字どおり日本を代表するエンターテーメント集団の一つとして育って来ました。この海外公演の一つが大野さんがコーディネートした、2012 年１２月のサハ共和国を中心とした鼓童の、初めてのシベリアツーアです。また同年８月、鼓童が毎年地元で開催する音楽イベント「アースセレブレーション」のプレイベントで、今回来日のハトラエフ夫妻が出演、大野さんが企画・演出した「ユーラシアの風」は大変好評でした。ところで東京・丸の内が明治以降、三菱財閥とともに街が発展していったのに対し、クラブのある東京・中央区の日本橋は、三井財閥とともに発展してゆきました。この三井財閥を日本有数の企業群に育てたのが、三井物産の初代社長で三井鉱山、日本経済新聞などの創立者の益田孝で、佐渡・相川の人です。また日本橋の昔からのラウンドマークの三越の新館のエンブレムを作成した宮田亮平　東京芸術大学学長も須藤健一　国立民族学博物館長とともに佐渡の人で、これも不思議な縁です。最後に昨年、日本で初めて国連の世界農業遺産に指定された、佐渡の里山を代表する棚田の佐渡・岩首集落でシルクロード音楽祭がいつの日か開かれれば素敵だと思います。

【マレーシア通信】第１６号　　マレーシアの音楽事情　　板坂　優一

● 板坂　優一：１９８３年生まれ。北海道出身。２００９年の冬からバックパックとギターを背負って中国からシリアまでアジア横断の旅へ。そこで見た『イスラムの世界』に魅せられ、現在マレーシアのペナンにてアジアの文化、特にイスラム圏について宗教、社会などの勉強をしている。

マレーシアでは年に数回、各地で野外音楽フェスティバルが催される位、音楽に対しての情熱が注がれているようだ。日もペナンでワールドミュージックフェスティバルと言世界各国からアーティストを招いての大きな野外イベンがあった。ペナンの老若男女や、外国人も大勢訪れていた。チケット代も日本のフジロック・フェスティバルのように万円レベルではなく、約２０００円程度だ。しかも会場に物を敷いてゆったりとビールを飲みながら鑑賞出来るほの十分なスペースがあり、かなりストレスフリーかつ、良音楽も聞けるピースフルで素晴らしいイベントだった。他も、アジア全域で大ブレイクした『ガンナムスタイル』のイブも最近ペナンで開かれ、満員御礼の大盛況であった。

私が見る所、ペナンの若者の間では洋楽ロックや R&B、クラブミュージック等が若者の間で人気なようだ。しかし面白いことに人種によって音楽の嗜好が有るように見える。例えば華人は中国語のなんとなくロマンチック的な曲、マレー人はマレー語のちょっとハードなロックミュージック、インド人はやっぱりインド直輸入の元気なインディアンソングと言った感じだ。

これらのような音楽をひっくるめてメインストリームの音楽シーンとしたら、それの裏側であるアンダーグラウンドシーンも存在する。アンダーグラウンドミュージックにもいろいろ種類はあるが、主にパンク、ヘヴィメタル、ハードコアと言うような音楽の事を指し、一般的にはやかましい音楽として嫌煙される存在なのだが、この音楽シーンはメインストリームの水面下で活発に蠢く、どの国にも共通するカウンターカルチャーだ。そしてこのようなバンドが沢山存在して、彼ら独自の文化を形成している。これもまた面白いことに、このような音楽シーンに属している人達の嗜好（音楽の好みやファッション等）は国籍も人種や宗教の違いも関係なく殆ど同じなのだ。要するに、マレーシアでこれらの様な音楽のライブに行くと、マレーシアと日本の違いが分からないくらい、人も音楽も日本と同じ感じなのだ。

マレーシアのイスラムではこのようなパンクやメタルなどの音楽は禁止はしていない。しかし全国ファトワ評議会では、ブラックメタルミュージックは飲酒や悪魔信仰等をムスリムに促す危険性が有るとして禁止するよう表明している。ブラックメタルとはヘヴィメタルの一種で歌詞や音階に黒魔術的な意味合いや、オカルト、悪魔信仰を含めたり、彷彿させるような激しい音楽の種類である。ちなみにファトワとはイスラムにおける勧告、布告、見解の事であり、イスラム以外の人には殆ど関係ない。マレーシアのある音楽関係者はこれに対して、ブラックメタルバンドはあっても、それを本気で信仰をするバンドはいないし、それを一つのテイストとして取り入れているだけだ。そもそも、それ禁止するならばブラックメタルの定義を明確に提示しなければならないだろう、との事だ。

このように音楽は文化を形成する一つの要素になりうると同時に社会的混乱も招く恐れもあるようだ。しかしひとつ言えるのは音楽一つで国や宗教、人種を超えて同じ文化を共有できたり、それで互いを知ることもできる。何よりも言葉の壁も越えて音楽を一緒に楽しめることは素晴らしい事だと思う。どんな音楽でも平和の一つの架け橋になる気がするが、使い方を間違えれば大きな問題にもなりうるかもしれない。

【インド通信】１３号　　ケーララの神話と子どもの本　　佐藤友美

［1986 年生。幼少期をオーストラリアとシンガポールで、10 代は埼玉県で過ごす。オーストラリア国立大学でサンスクリット語と日本語言語学を学ぶが、優等学位のために書いた論文は津田梅子に関するものだった。その後東京外国語大学の博士課程前期に入学するも、現在休学してインド・ケーララ州で日本語教師として企業勤務。現在の主な関心はケララ芸能。］

インドの叙事詩といえば、マハーバーラタとラーマーヤナ。ヨーロッパのイリヤスやオデュッセイアとも比較されます。その存在感は、日本人にとっての桃太郎やかぐや姫と、「誰もが知っている話」という点では似ていますが、その膨大な量と、生活に対する影響力という点では、段違いです。ヒンド

ゥーであれば、それは自分たちの信仰する神様の話であるし、そうでなくても、インド人にとってこの叙事詩の登場人物やエピソードを知っているということは、常識とも言えます。こうした神話の知識なしに、インドの伝統芸能を理解することは、不可能です。

元々、伝統的な社会では、親から子へと連綿と伝えられる民話であったのでしょう。また、折々に村落にやって来る吟遊詩人や芸能集団によって、その記憶は強化され、広められていったに違いありません。しかし現代においても人々が叙事詩の記憶を共有しているというのは、外から見ると不思議にも思えます。

現在の、人々の一般的な叙事詩の理解やイメージの元になっているのは 1980 年代に放映された、実写ドラマだと言われます。また地域によっては、神話を題材にした実写映画もたくさん作られていました。しかしそれだけでなく、インド全域で人々の神話理解に大きな貢献をしているのは、「アマル・チトラ・カタ（神々の絵物語）」という、カラーコミックスです。

1967 年創刊のこの雑誌は、インド 20 言語版があり、マラヤーラム語版の隔週刊を見る限りでは、各言語それぞれ独自のものを制作しているようです。しかし、大判でもっとしっかりした装丁の、英語やヒンディー語のものも入手できます。私の周囲の文化人たち、特に女性たちは、こぞって「アマル・チトラ・カタは beautiful だ」と言います。

ケーララの状況を見ると、絵本という存在は、こちらではあまり一般的では無いようです。かなり低年齢向けの本であっても、字がびっしり入っています。自然たっぷりの環境では、絵本の必要性も低かったのかもしれません。しかしやはり近代化が進んでいく中、子どもたちに豊かな本の文化を……という人々も出てきているようで、写真の上部の数冊は、最近活発に、きれいな絵入りの子どもの本を出している出版部のもの。

「アマル・チトラ・カタ」は、長らく子どもたちの、一番のお気に入りであったのでしょう。その物語は、オーソドックスなものに偏りすぎているだとか、登場人物が類型的すぎるだとか、批判も受けているようですが、少なくとも子どもたちの神話への導入としてはピッタリであるように思えます。これからはどんどん子ども向けの魅力的な本も増えて来るでしょうから、アマル・チトラ・カタは生き残っていけるのか……？　という懸念も感じられますが、伝統にプライドを持っているインド人のこと、まずは優先的に、アマル・チトラ・カタから子どもに与えていくのでは、という気もします。

【インド通信】１４号　　ケーララのイスラム教徒１

ケーララの穏やかな宗教事情については、今までも少しずつ触れてきましたが、今回は特にイスラム教徒について書きたいと思います。一般的にケーララでは宗教対立や差別はほとんど無いと言われていますし、実際にも私から見える範囲では、宗教や宗派の関係なく仲良くしているところしか見かけません。

ただ、過去から常にこうであったのかというと、そうとも言い切れないようです。かつてはムスリムと言えば商人。市場は「こわい所である」という認識があったそうで、女傑ウンニヤールチャの逸話の一つに、周囲が止めるのも聞かず出かけた市

場で、襲い来る男たち（おそらくムスリム）を鞭のような剣、ウルミでのしてしまったというものもあります。

文豪バシールはイスラム教徒で、ムスリムを主人公とした小説を多く残しました。邦訳もされている「あたいのじっちゃん、象飼ってたの」では、保守派ムスリムの家族に生まれた娘が、「イスラム教徒が農業をするなんて！」と驚く場面があります。また、インド中でヒットしたタカリの「チェンミーン（えび）」でも、漁村のヒンドゥー漁師の娘と、ムスリム商人の息子の悲恋が描かれています。（余談ですが、インドの悲恋ものは、シェイクスピアなどよりもよほど悲惨だなあといつも感じます）

宗教による差別というものとは別として、コミュニティの区別、というものが厳然としてあったのではないかと想像されます。今でも地域によっては、ムスリムが多い土地などがあります。習慣的なところでは、ヒンドゥーもムスリムもクリスチャンも大して変わらなかったのかもしれませんが（そういった区別がはっきりしてきたのは、外界の影響を受けた近現代のことのようです）、共同体ごとの区別は、今よりも自明のことであったのでしょう。

カースト制度であっても、ケーララにはあまり無かったというような言い方をされることもありますが、権威グルワユール寺院はほんの数十年前までアウトカーストが入ることを許していませんでした。今でもヒンドゥー以外は入れない寺院は多く、この厳しさはむしろケーララに特筆すべきことだと聞きます。そもそも、伝統的な社会では、巡礼以外の目的でコミュニティ一外の人間が入ろうとする意識そのものが無かったのでしょう。

もっとも、ケーララは相当に保守的な一面があるのは確かで、コミュニティという観点から見るなら、「マラーヤリ＝ケララ人」というアイデンティティが、昔の小さな共同体意識にとって変わっているという側面はあるように感じられます。外から来た人間に対する抵抗感（「違うもの」であるという感覚）や優越感は、それが北インド人であれ南インドの他州の人間であれ私のような外国人であれ、一般的に強いのが現状です。

長くなってしまったので、ちょっとした歴史や、ムスリムの人たちの装いなどについては、次回まわしにさせていただきます。ムスリムの女の子は美人が多い、と、主観ですが思います。

メディア・ユーラシア情報　ネットリサーチ　（今号は簡略版です）

● プーチン流“バラマキ”限界？…露で経済成長鈍化

2013.5.30 22:18

【モスクワ＝遠藤良介】プーチン大統領の就任から１年余りが過ぎたロシアで、経済成長の鈍化が鮮明になっている。今年１～３月期の国内総生産（ＧＤＰ）は前年同期比でわずか１・２％の伸びにとどまり、経済発展省は通年の成長率予測を３・６％から２・４％に下方修正した。石油・天然ガス収入を再配分するだけのプーチン流経済モデルが、いよいよ限界を露呈してきた。

２００８～０９年の世界金融危機後、ロシアの経済成長率は１０年に４・５％、１１年に４・３％、１２年に３・４％と漸減してきた。今年の予測成長率は、マイナス７・８％となった２００９年を除き、１９９９年以来で最低となる。

これは、プーチン氏が大統領復帰前に豪語していた「年６～７％の成長」からほど遠く、主要新興国の中でも大きく見劣りする。ベロウソフ経済発展相は４月の政府会合で「今日の状況は相当な程度、世界経済でなく、国内要因に関係している」と率直に述べた。

２０００年に１期目の大統領に就任したプーチン氏は、政治・経済の両面で国家統制を強化する一方、石油・天然ガス収入を公務員給与や年金の引き上げ、国策企業への資金投下などに振り向けた。就任時に１バレル＝２０ドルだった石油価格の急騰に助けられ、０８年春までの前回大統領期には年平均約７％の成長を達成した。

通算３期目には、強権統治と“バラマキ”というプーチン政権の性格がいっそう強まっている。医師や教員の給与増額、住宅供給、軍需産業支援といったプーチン氏の公約を全て実現すると、任期の６年間で４兆８０００億ルーブル（約１５兆３０００億円）の支出増になると試算されている。

だが、経済減速が示すのは、従来の発展モデルが頭打ちになり、バラマキの原資を見いだすことも困難になっている現実だ。最大の問題は、国家予算に占める石油・天然ガス関連の収入が５０％を超え、地下資源頼みの経済構造から脱却できていないことにある。

財政赤字の回避は不可能とみられており、国際資源価格の急落に見舞われた場合の影響は甚大だ。

政権のリベラル派は企業の税負担軽減や汚職対策、投資環境改善などによる産業育成を主張。だが、現実には治安・特務機関の出身者など国粋主義のシロビキ（武闘派）が影響力を増しており、政権が大胆な改革に踏み切る兆候はない。

「停滞の時代」と呼ばれる旧ソ連後半のブレジネフ政権期に、超長期化する「プーチン時代」をなぞらえる論調も目立ってきた。

http://sankei.jp.msn.com/world/news/130530/erp1305302220000 3-n1.htm

● インド各紙がシン首相の訪日で日印関係緊密化を訴え　「中国を鼻先であしらう好機」

2013.5.31 22:55

首脳会談を前にインドのシン首相（左）と握手を交わす安倍晋三首相＝５月２９日、首相官邸

【ニューデリー＝岩田智雄】５月３０日付のインド主要紙は、シ

ン首相の訪日を１面トップ記事などで手厚く報道し、日印関係の強化を大々的に歓迎した。インドはカシミール地方の支配地で中国人民解放軍の侵入と駐留を受けたばかりで、中国の軍事的脅威に対抗するため、日印の連携強化を訴える論調が目立った。

ヒンドゥスタン・タイムズは１面トップで「仕事と円を中国からインドに移すのに熱心な日本」との見出しで、「何百もの日本企業が、工場を中国からインドに移し、巨額の投資と大量の仕事をもたらすかもしれない。日本はインドにとり（軍事）技術の魅力的な源として浮上しそうだ」と期待を示し、「共同軍事演習を深化させることは、最近、インド領にずうずうしい侵入をした中国を鼻先であしらう好機となるだろう」と伝えた。

シン首相が日印の関係強化や海洋の自由での協力を訴えたのは「中国の海洋での拡張路線に抵抗する穏やかな表現だ」と指摘した。中国共産党機関紙、人民日報が最近、日本がインドなど中国周辺国との関係を深めていることに「中国関連問題で押し込み泥棒になっている政治家がいる」と批判した記事についても、「こうした邪悪な警告は命運が尽きた」と断じた。

タイムズ・オブ・インディアは「日印が真珠の首飾りの破壊で手を携え」との見出しで日印首脳会談の成果を報じ、中国がスリランカやパキスタンなどインド洋周辺国で軍事利用を視野に港湾整備を支援していることに対抗するため日印が協力を強化するとの趣旨の記事を掲載した。

インディアン・エクスプレスは「トーキョー（日本政府）との団結」と題する社説で、シン首相は中国の顔色をうかがって日本への接近を心配していたようだが、カシミール地方での侵入事件が「いつまでも続く中印関係のもろさをさらけ出し、日本という選択肢を新たに突出させた」と分析している。

http://sankei.jp.msn.com/world/news/130531/asi13053122570004-n1.htm

● 北朝鮮、ロシアへも特使派遣検討か　韓国紙報道

2013.6.3 13:11

韓国紙の京郷新聞は３日、北朝鮮が米中首脳会談が開かれる７、８両日の前後にロシアに特使を派遣することを検討していると報じた。特使候補には、強硬派として知られる金格植・朝鮮人民軍総参謀長の名が挙がっているという。

北朝鮮とロシアの関係に詳しい消息筋の話としている。

北朝鮮は５月に金正恩第１書記の特使として崔竜海軍総政治局長を中国に派遣。中国メディアによると、崔氏は同月２４日の習近平国家主席との会談で、核問題をめぐる６カ国協議の再開に前向きな姿勢を示した。（共同）

http://sankei.jp.msn.com/world/news/130603/kor1306031314000 2-n1.htm

● 中国船体当たりに抗議　ベトナム、「主権侵害」と非難

2013.5.28 13:13　［中国］

ベトナム外務省のルオン・タイン・ギ報道官は２７日、南シナ海の西沙（英語名パラセル）諸島付近でベトナム漁船が中国船に追い回され、体当たりされた事件について「深刻な主権侵害だ」と非難し、同省が２６日に中国側に抗議したことを明らかにした。

報道官は「漁民の生命や財産を脅かす行為」でもあるとし、中国側に賠償と再発防止を要求した。西沙諸島は両国が領有権を主張するが、中国が全域を実効支配している。（共同）

http://sankei.jp.msn.com/world/news/130528/asi13052813150003-n1.htm

● 尖閣周辺から中国船退去　海保が確認

2013.5.27 11:40

沖縄県・尖閣諸島の周辺を航行していた中国の海洋監視船３隻が２６日夜、領海外側にある接続水域から退去するのを海上保安庁の巡視船が確認した。中国当局の船は２６日まで２５日間連続で尖閣周辺を航行していた。第１１管区海上保安本部（那覇）が２７日、明らかにした。

１１管によると、３隻は「海監２６」「海監４６」「海監６６」で、２６日には尖閣周辺の領海を約５時間航行した。

http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130527/plc1305271142001 0-n1.htm

【危機に立つ森の長城プロジェクト】

先々号でご報告したとおり、東日本大震災で被災した海岸部では、松が根こそぎ流されて被害を甚大にしたことが指摘されていますが、国の復興プランでは松の植栽にこだわり、3mの土壌を積み上げることで「松の根が横に広がらず、深さ 3mまで届くので津波でも流されない」と考えているほか、海岸部に長大なコンクリートブロックの防潮堤計画が進行し、景観を破壊する計画が進行していることがはっきりしました。宮城県議会では、いったん宮脇方式が議決されたが、瓦礫はなくなった―という国のガレキ広域処理計画にも阻まれています。地震列島である日本にふさわしい戦略的復興への舵取りが必要だ。そんな中、旧細川政権で首相補佐官を務めた田中秀征氏が森の長城計画応援の一文を書いていたので紹介する。私は長城とソーラー計画との連携が必要だと考えている。　　大野遼

http://diamond.jp/category/s-government

【第 174 回】 2013 年 3 月 14 日

田中秀征［元経済企画庁長官、福山大学客員教授］（かつて首相特別補佐として細川政権を支持）

被災地の瓦礫から防潮堤をつくる

「森の長城プロジェクト」を応援しよう

3 月 11 日は大震災から丸 2 年。新聞・テレビは大がかりな特別企画を組み、2 年間の復興実績を検証し、多くの反省点も浮き彫りにした。

3.11 特集報道に共通していたのは「決して 3.11 を風化させてはいけない」という強い呼びかけであった。

しかし、3.11 は風化するにはあまりにも大きな出来事。確かに、仕事や生活に追われる多くの人にとって、常に3.11に優先することがあるのは当然。だが、決して忘れているわけではない。原発問題 1 つとっても、デモに参加する人たちが少なくなったからと言って、原発容認に変わったわけではない。むしろ脱原発への決意はさらに固まってきていると思う。

細川護熙元首相が理事長

「瓦礫から防潮堤をつくる」試み

さて、風化させないための最も有効な方法は、言うまでもなく、われわれ 1 人ひとりが、積極的、具体的に復興に参画していくこと。

そのためには民間が行っている多くの復興事業や活動に関わっていくのも 1 つの道であろう。

私は財団法人の「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の活動に大きな期待をしている。

これは、細川護熙元首相が理事長、その道のプロである宮脇昭横浜国立大名誉教授が副理事長を務めて、既に大きく動き出している。

この事業は簡単に言うと、瓦礫を活用して東北の海岸に万里の長城のような防潮堤を築くというもの。

青森県から福島県までの海岸 300 キロに高さ 30 メートルの植林した土堤を 15 年から 20 年をかけて築くのが最終目標だ。

大震災直後から私は、「あの大量の瓦礫を運び出さないで活用することができないものか」と考えていた。残念ながら専門知識のない私はそれ以上進めて考えることはできなかった。

だが、宮脇教授は、今までに日本、世界の 1700 ヵ所ほどで 4000 万本以上の植林を指導してきた第一人者。そしてこの壮大なプロジェクトの提案者でもある。

今回の築堤の方法は、瓦礫から有毒なものなどを除去し、深く掘って発生した土と混ぜて土堤を築き、そこにシイ、タブ、カシなどの津波に対して強靭な木を植える。そうすると、木質などの有機物が分解して木の生長に寄与する。瓦礫の混ざった土堤は、酸素が通り易くなり、これも木の生長を助けるという。また瓦礫を抱いて根を張った木は一層強靭になるらしい。今回の津波でもこれらの木は、流された何台もの自動車を押しとどめて倒れなかったことが実証されている。

財団は企業・団体への大口の寄付を求める一方で、個人に一口 500 円の支援を呼びかけている。なぜなら 500 円で 1 本のポット苗を植えることができるからである。詳しくは財団のホームページで調べることができる。

この「森の長城」が完成すれば、今後幾千年もの間、津波をはね返す力になるに違いない。目標とする「15 年から 20 年」で完成すればそれに越したことはないが、半世紀の大事業と考えていたほうがよい。既に大きな話題となり、多数の人が支援しているが、この支援の輪が意外なほど拡大すれば、予想に反して 10 年でもかなり進めることができるかもしれない。

巨額の建設費が必要な

「コンクリートの防潮堤」と上手な共存を

一方で、国など公的部門では、このところコンクリートの防潮堤づくりを急いでいる。それと「森の長城」をどう折り合わせるかが、当面の緊急の課題でもある。

コンクリートの防潮堤は集中的に予算を投入すれば数年内にも早期完成が可能な利点があるが、おそらく“兆”と言う巨額な建設費が必要であろう。また、専門的なことは解らないが、コンクリートの方が適した部分もあるかもしれない。例えば、高台への住居移転が困難な地域では、1 日も早く防潮堤の完成を願っているはずだからコンクリートを求める気持ちもわからないではない。

超長期でみれば、コンクリートより「森の長城」の方がはるかに長持ちするだろうし、“景観”は比較にならないほど違うだろう。

結局、必要性に応じて混合方式で進める他はないだろう。

「森の長城」の最大の特長は、美しい景観をつくる他に、多くの人がかけがえのない存在としてこの歴史的事業に関与できること。小学生が 500 円の小遣いを投じて参加すれば、生涯、このプロジェクト事業に関心を持ち続け、今回の大震災を風化させないことにもなる。

宮脇教授は、「森の長城」に 9000 万本の照葉樹が必要と

言っている。ほぼ日本人１人が１本の計算だ。

このような国民参加の大事業を着実に進めていけば、それこそ大震災の不幸を未来志向で乗り越えていくことができよう。

【愛川サライ動向】

Ⅰ　まちづくりネットワーク愛川総会開催。団体名変更「中津川」から「愛川」へ

愛川サライも一員として参加するまちづくりネットワーク中津川（諏訪部勲代表）は、６月２日、愛川町にある障害者支援所フリースペース・グリーンで総会を開きました。総会では、水の里愛川　ホッとする空間「中津川水辺プロジェクト」の一環として進めているホッとベンチプロジェクトの活動状況や計画について協議、団体の名称を中津川から愛川に変更し、「まちづくりネットワーク愛川」とすることで合意、また新しい規約と役員を協議しました。今後参加の団体や町民の積極的提案に対応する団体として活動を発展させることで合意しました。

Ⅱ　第４回中津川弁財天音楽祭「笛と太鼓のフェスティバル」に厚木法人会愛川支部が後援決定

今年で４回目となる中津川弁財天愛川町音楽祭―アジア・シルクロード音楽祭　笛と太鼓の祭典は、出演者の調整や７月２６日に来日予定のサハ共和国国立劇場付属青少年和太鼓ユニット「テティム」受け入れの準備に追われていますが、このほど、厚木法人会愛川支部は、愛川サライが進めているこの音楽祭と１０月１２日に予定している第３回中津川モンゴルフェスティバル及び愛川サライも加盟している「まちづくりネットワーク中津川（上記総会で愛川に変更）」が進めているホッとベンチプロジェクトの三つの事業を後援することを決定しました。

愛甲商工会も３事業を後援する方向でしたが、愛川町が、愛川町観光協会による後援を中津川モンゴルフェスティバルのみとしたことから、音楽祭とホッとベンチプロジェクトへの後援は見送り、中津川モンゴルフェスティバルへの後援のみの方向で決定する見込みとなりました。今後、愛川町の山田登美夫町長との話し合いが必要となりました。

【ユーラシアンクラブ動向】

●　いやしの湯・青根緑の休暇村センターで交流合宿

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライは、６月２９日－３０日、相模原市緑区青根にあるいやしの湯・青根緑の休暇村センターで合宿します。コッテージ２棟（16 人終了）、10 畳の和室（５人収容）を借り切り、テントも含め、ユーラシアンクラブの江藤セデカ、バー・ボルドーさんを中心とした新執行部と愛川サライのメンバーの交流を図ります。今年、愛川町では、7 月 26 日、4 年前に招聘したロシア連邦サハ共和国の青少年太鼓ユニット「テティム」一行 18 人が訪れ、繊維産業会館で合宿、７日間、神奈川県立愛川高校武道場に通い、和太鼓の研修に取り組みます。指導者である金子竜太郎（元鼓童ソリスト）も子ども達と一緒に合宿、創作曲二曲を完成。８月３日、愛川町農村環境改善センターで開催される「第４回中津川弁財天愛川町音楽祭－アジア・シルクロード音楽フェスティバル　笛と太鼓の祭典」で発表されます。また１０月１２日には、モンゴル・ブフ・クラブ、モンゴル文化教育大学、ユーラシアンクラブ三団体 20 周年記念、中津川モンゴルフェスティバルが開催されます。神奈川県立あいかわ公園で開催される中津川モンゴルフェスティバルは、日本で最大規模のモンゴルフェスティバルとして、大相撲のモンゴル人力士も参加する催しになりました。ユーラシアンクラブと支部愛川サライ、まちづくりネットワーク愛川関係者との協力が欠かせない催しとなっており、理解親睦協力関係の構築が重要になりました。合宿は、ユーラシアンクラブの今後の活動と愛川町での活動を展開するために必要な課題を共有し、課題解決能力のある団体への脱皮を模索します。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ　発行人：江藤セデカ
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314－1
TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ　お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一九店　当座預金　0087777　ユーラシアンクラブ　会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間１口 3、000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願い申し上げます。
http://eurasianclub.org/
2013 0501　Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：なかなか原稿が集まらず遅れましたが、「20 周年の集い」のご報告です。クラブは、新体制の風通しを良くするため、合宿を行います。温泉とバーベキュー。それに率直な意見交換が大事な場面です。まずは内輪から理解親睦協力の体制を目指したい。合宿場所は、8 年間、地域拠点型活動の町となった愛川町から 40 分の相模原市の癒しの湯。NPO の総務委員会メンバーと愛川サライ、そしてまちづくりネットワーク愛川の仲間と良い関係ができることを希望している。私は、東日本大震災の被災地支援で少しはマシになった、パンチャラマ直伝のヒマラヤ（ネパール）カレーを調理しようと思っている。新体制が軌道に乗り、離陸するまでしばらくお待ちを（お）